

## 大泉図書館 図書館利用者懇談会

1. 日時 令和2年10月31日(土) 10時～11時30分
2. 場所 大泉図書館 2階 視聴覚室
3. 参加者 利用者 19人  
図書館 5人(大泉図書館長、館長代理2人、学校総括支援員、書記)
4. テーマ 「コロナの時代における大泉図書館のサービスを考える」
5. 配布資料 (1)「練馬区立図書館ビジョン 項目別取組状況について」  
(2)「大泉図書館の事業と新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」
6. 次第 (1) 大泉図書館図書館挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 事業紹介等  
(4) 懇談

### 大泉図書館利用者懇談会 会議録

#### 1. 大泉図書館図書館挨拶

それでは定刻となりましたので、はじめさせていただきますと思います。

これから『練馬区立大泉図書館 令和2年度図書館利用者懇談会』を開会いたします。

改めまして、本日はご来館いただきまして、誠にありがとうございます。本日の懇談会ですが、前年度の利用者懇談会以降から今年度10月までに実施した事業と、臨時休館から今現在に至る新型コロナウイルス感染症拡大防止対策についてご報告いたします。

後半は、本日までご出席いただきました地域の皆様、図書館を利用されている団体の皆様、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。今年度のテーマは「コロナの時代における大泉図書館のサービスを考える」といたしました。11時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしくお願い申し上げます。

それでは、はじめさせていただきます。

#### 2. 職員紹介

館長代理2名、学校支援員

#### 3. 事業紹介

昨年の利用者懇談会以降で、新型コロナウイルス感染症が発生する前に行ったいくつかの事業と、新型コロナウイルス感染症のため臨時休館した後、再開館するまでの間に、図書館がどのような防止策を取ったのかについてと、開館後の事業に分けて報告しました。

#### 4. 懇談

**図書館** それでは、ここからは皆さんとの意見交換の時間とさせていただきます。ご発言に際しましてですが、発言なさる場合はその方はお話しいただく前に一般の方は名字をおっしゃっていただいて、団体に所属されている方は団体名をおっしゃってからお話しください。なお、議事録に個人名は記録されませんので、ご了承ください。また、一人でも多くの方に発言いただきたいため、大変恐れ入りますが、ご発言は長くても3分をお願いいたします。皆様との懇談会が有意義なものとなりますよう、ご協力をお願いいたします。また、先程冒頭でも申し上げましたが、本日のテーマは、「コロナの時代における大泉図書館のサービスを考える」でございます。そのため、館独自で答えられないようなこと、例えば図書館システムに関することなど区立図書館全体に関することは、ここではお答えできない場合があります。その際は、練馬区立図書館を統括しております光が丘図書館にその内容をお伝えいたします。後日光が丘図書館と調整しまして、ホームページ上で回答させていただく予定です。また、よろしければ、11月7日土曜日午後2時から4時に行われます光が丘図書館での懇談会にご参加いただいて、そちらでご質問いただければより詳しい回答があると思います。

それでは、何かご質問とかご意見ご要望とかあれば、挙手をして、お願いいたします。マイクをそちらの方にお持ちいたします。

**利用者** 1週間に5回ぐらいは利用しているんですが、図書館長のお顔が見えないので、もう少しですね、スタッフと一緒に行動することもいいんじゃないかと思うんですが、どうでしょうかね。直接要望したいようなこともありますし、どのような方が皆さんに知っていただいた方がいいんじゃないかと私は思いますが、いかがでしょうか。

**図書館** フロアでスタッフと共に行動をとおっしゃっていただきましたが、館長業務というのもございまして、常にフロアに出ていくことは難しいのですが、図書館の事業の中で私が担当して行っているものもいくつかございますので、そういったところもぜひご利用いただければと思います。11月から始める予定になっています「本でつながる大泉読書サロン」も私が担当しておりますので、そういった事業にもご参加いただければと思います。よろしく申し上げます。

**利用者** ありがとうございます。

**図書館** 他にご意見ご要望などありましたら、お願いします。

**利用者** 藤沢周平と大泉の会です。今図書館で、コロナ対策ということでいろんなことをなさっているようですが、具体的には新型コロナウイルス感染症はどんな状況ですか。

**図書館** 図書館の方ですね。

**利用者** 内部もそれ以外もすべてです。

**図書館** 今現在図書館関係では、そのような状況はありません。起こらない状況を続けられるように、いろいろと対策を講じているところです。それは再開館の第1段階、

第2段階、第3段階それぞれのタイミングで、どのような形で開館するのか決められたものをもとに、どういう対策を取ったらよいかを内部で検討し、それぞれ対応策を立ててまいりました。ちょっと嚴重すぎるとおっしゃる方もいますが、まだ収束したわけではありませんし、ワクチンもできているわけでもありませんので、丁寧に対応していきたいと思っています。

**利用者** それで具体的なことがわかりました。不特定多数の会合とか催しは、特に問題が起こっていないんですか。対策という意味では、今後もこれが続く予定ですか。

**図書館** まず、図書館で働いているスタッフに関しましては、毎日朝検温をして体調を管理したうえで出勤しています。万が一体調が悪い場合は、休むように指示しています。そのままこれは続けていきたいと思っています。それと、事業を再開しているところですが、再開するにあたっては、例えば図書館の部屋の定員、ここは50人でいつも事業をしていたのですが、半分に減らして25名から30名定員で事業をしています。講師の方と観客の方の間の距離は通常よりも広くとっておりまして、講師の方には口元が見えるクリアマスクをしていただくなど、何らかの対策を講じて事業をしています。

**図書館** 少し追加させていただきますと、よみきかせとかおはなし会というのは、今までは申込み制でなく、当日来ていただいた方皆さんに参加していただくというやり方だったんですが、今は人数を少なくして、あらかじめ申込みいただいて、お名前とご連絡先を伺っています。本日お渡ししたような連絡カードで、何かあった場合にご連絡をさしあげますというようにしています。部屋に入る時にも、必ず検温をして、消毒をお願いしています。「体調が悪い方はご来館をお控えください」ということをチラシにも明記していますので、皆さんに理解していただいている、特に大きなトラブルはありません。会議室の利用や視聴覚室の団体様のご利用も、ご理解いただいていますし、例えば団体が続けて使われる場合には、ドアの消毒とかテーブル、イスの消毒を、必ずしています。以上でございますが、どうでしょうか。

**利用者** 練馬区の図書館十何館ありますけど、特に問題はないんですね。コロナ患者が出たとか。

**図書館** 問題なく、運営しております。

**利用者** これから、冬を迎えるにあたりましてね、換気について、今までは窓を開けさせていただいて会をしているんですけど、これからはちょっと、寒さに暖房と窓開けると相当光熱費がかかるんじゃないかと思って、ちょっとそこが心配なんです。今見るとサーキュレーターも置いてありますけれども、こういうものも各部屋に置いていただけのんですか。これからの三密の問題は、ちょっとインフルエンザとかそんな大変なんじゃないかなと思って、ちょっと確認させていただきました。

**図書館** ありがとうございます。確かにご心配な点があるかと思えます。光熱費はかかりますが、開けられるときは開けて換気もしながら、どうしても無理な時にはそこに

あるようなサーキュレーターも使っていきたいと思っています。それと、通常の年もですが、図書館スタッフは大勢の方と接するということもあり、自分でもかからない、人にもうつさないために、インフルエンザの予防接種を極力するようにしています。できることは少しでもやるようにしています。

**利用者** 夏目漱石を読む練馬読書会です。

確認事項なんですけど、例えば他の団体の方は視聴覚室なり会議室なりを使われる場合に、必ず検温はやられているんでしょうか。私たちはこの前会議室を利用した時に、体温計がなかったんですけど、他の団体の方も、これは個人個人で責任をもって対応するとか、検温はして来られているんでしょうか。それをちょっと確認させていただきたいと思ひまして。

**利用者** 使われている会議室や視聴覚室に図書館の方で体温計を置いていただいているんですか。私どもでそれは用意しなくちゃいけないわけですか。

**図書館** 図書館が主催する事業の時には、本日もそうでしたけど、検温をしておりますが、利用団体の方たちに体温計をお貸しするという事はしていません。利用団体の方、例えば本日図書館で会をやるといふ時に、来る前にお家で検温してきてくださっていただければ十分かと思ひます。

**利用者** 体温計は置いていただける可能性はないんですかね。図書館の方で。それはだめなんですか。

**図書館** 今現在、利用団体用に体温計をお貸しすることはしていません。

**利用者** 集会所を利用した時には、その集会所の方がひとりひとりちゃんと検温していただいたわけですけども…。

**利用者** 部屋を使う場合と、図書館とではちょっと違うと思うんだけど、もし余裕があるんなら…。

**図書館** 現実的には難しいところなので、利用される前に検温してきてくださればそれでよいのではと思ひます。

**図書館** 団体の方の中であれば、それは不特定多数というよりも、決まったメンバーの方ですので、というところもあります。

**図書館** 他にご質問ご意見などございますでしょうか。

**利用者** 先程団体名を申し上げないで失礼しました。朗読のいづみです。

検温の件ですが、私どもの方では、もともと持病がある方が自発的にお休みしています。何かあったら困るからって。それで、ちょっと元気な方だけ、たいしたことのない方はお家で測っていただいているんですけども、ただひとつ、今 37.5 度っていう基準がありますけれど、ある程度年齢がいくと体温ってすごく低いんです。基礎代謝が低いから。だから、政府が定めた体温基準っていうのはコロナに当てはまらなないと私は当初から思っております。だから、やっぱり個人個人が自分の体温で、体調を考えるっていうことが一番大事だと、あんまり検温に頼るのはかえってよくないような気がいたします。

**図書館** ありがとうございます。確かに、人によって平熱って違うことはわかっているんですが、一定の基準を設けなければならないというところもありますので、図書館での事業の際には検温を実施しています。それよりも、マスクを着用することによって防げることでとか、外出して家に戻ってきたら手洗いやうがい徹底するとか、自分で気をつけてやること予防になることってあると思います。図書館でも「本を、読むまえと読んだあとは手を洗おう!」というチラシを入れてたりしますので、自分たちでできることからやっていくしかないのかなと思っています。

**利用者** ねりま文庫連絡会と申します。この間ねりま文庫連でちょっと会合を貫井図書館の会議室でやった時に、10月の初めだったんですけれども、その時に事前に図書館さんの方から電話をいただいて、会議室の定員をフルで使ってよくなりました、ということをお知らせいただいたんですね。ああそうかって思ったんですけど、それでもまだ定員は、事業の時は半分ということですかね。いつ頃までそれは続くのでしょうか。

**図書館** 定員を半分にしていた時期があり、今は定員で使ってよいことになったのですが、図書館の事業はもっと前から企画しているので、これから大泉図書館で実施する11月の事業、大勢の方が参加するような事業もあるんですが、それも30名で企画しています。定員に戻してよいというお話はいただいておりますが、ソーシャルディスタンスなど考えると、定員は少なくして実施することにしています。それ以上に、参加される方たちの気持ちもあると思いますし、定員全部までよいとなっても、絶対そうしなければならないということではないので、もろもろ考慮したうえで開催するのがよいのではないかと考えています。

**図書館** ほかにございますか。

**利用者** 新しい図書を購入する基準というものがいいのかどうか、光が丘と調整してるって言うんですが、練馬区が光が丘図書館に任せてるってことを言っていますが、どんな指揮系統になっているかよくわからないんです。また購入図書に関しても、光が丘で一括して購入して練馬区内の12か所13館の地域館に配布しているのか、その点についてですね、ちょっと教えていただきたいと思うんですね。個人的にはここに紹介されている新しく入ったって蔵書にしても自分にとって魅力的なのがほとんどないんですね。どうしてこんな本を買うのかって思うような本がほとんどなんです。練馬区の図書の購入金額っていうものは、莫大な金額になると思うんですね。だから、その選考過程を明確にしといてもらわないと、よくないと思うので。そのところ現状はどうなっているのか、これから何か改善する気持ちはあるのかを教えてください。

**図書館** お答えいたします。新しい図書の購入をどのようにしているかということですが、まず、練馬区公式HP中に教育関係予算・決算というページがあり、その中の「図書館費」の項目部分で、年度ごとの図書館の予算・決算額があがっています。資料の購入費単独では載ってないのですが、図書館でどれぐらいの予算が計上さ

れているかが公開されています。本をどのように買っているか、選んでいるかについてですが(選書と呼んでいます)、光が丘図書館が購入する分(見計らいと呼んでいます)、光が丘図書館が選書して、各図書館に振り分けているものと、大泉図書館で発注し購入するものとの2種類があります。選書基準に関しましても、練馬区立図書館のHPに「練馬区立図書館資料収集方針」がありまして、どのような分野の本を何を基準に選んでいるかが明記をされています。それから、光が丘図書館が配布しているのかということですが、先程申し上げました見計らいという形で発注された本が、毎週決まった日に納品され入ってきます。雑誌も決まった日に納品されています。雑誌も各館で分担して分野を持っていて、均等になるように選んで保存しています。

それから、今現在は新着図書はスペースを縮小して、返却カウンター前で、小さいブックトラックに載せて置いていますが、そこに毎週土曜日の朝最新のものをお出ししています。数が随分少ないと思われると思います。来館された時に、残っているものが数十冊しかないと思います。実際はそんなに少ないわけではなくて、毎週百何十冊もの本が入ってきます。たくさん出ていないのは、あらかじめ予約をされている方にまず回るからです。図書館が開館した時にはだいぶ少なくなっています。魅力あるものがないということですが、先に人気がある本は予約された方のところに回っていくので、魅力ある本が見当たらないのかなと思います。現物以外に、「新着図書」というファイルと一緒に置いてあります。土曜日当日の日付が入った新着本の一覧が載っています。本のタイトルや著者名、出版社名など書いてありますので、そちらを見ていただいて、これよさそうだなという本があればお声かけいただいて、予約することができます。カウンターで直接お聞きいただければ、自分の読みたい本が見つかるかなと思います。それから、リクエストもお受けしています。ただしご要望いただいたものを必ず買うというお約束はできません。大泉図書館では、選書会議というのを毎週しています。その際に検討させていただいて、購入するかどうかを決定いたします。こちらの回答でよろしいでしょうか。

**利用者**     ありがとうございました。

**図書館**     ありがとうございます。

**利用者**     いやもう今答えがありましたから、どれぐらい利用者の意見が反映されてるかなっていう。今のお答えでわかりましたので、結構です。

**利用者**     漱石の会ですが、視聴覚室とか会議室を使わせていただいています。聞きたいのは、図書館は本やCDを貸し出していますよね。我々が安全にそれを使うために対策を立てていると思います。新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、例えばソーシャルディスタンスとか、マスク、手指の消毒ね、それは皆さん本当にやっているとあります。私たちは図書館から本やCDを借りる時にそれが安全か気にしています。どのように菌の付着時間とかを勘案してやられてるのかなというのを、ちょっとお聞きしたいんですけど。

**図書館** 返却された本の流れをご説明させていただきたいと思います。まずカウンターで返却されたり、ブックポストに返却された本ですが、中に忘れ物がないかといったことを確認させていただくために検本します。返却処理をした後に、書架に戻るものに関しましては、全部の資料を拭くということが難しいので、返却された時にすぐ戻さないで、一晩作業室等で保管します。その後、翌日書架に出します。もしそれが借りたいという方がいらっしゃる場合は、その本をピックアップして、拭いてから貸出しをするようにしています。すぐ予約がついて他の図書館に移動させなければならないというものも1冊ずつ拭いてます。データ処理上利用者の名前が入ったレシートが出て、その本にはさまれて、予約棚にご用意してるんですけども、そちらの本は必ず、それが予約として確保された時点で拭いてます。CDも同様に拭いています。それから、書架から取り出した本を赤いカゴに入れていただくようにしています。これもカゴに入れていただいた後、拭いたり一晩おいておくためのものです。

図書館での手順は今申し上げたとおりなんですけれども、本は表だけを見るのではなくて、中も触りますよね。本当にすべて完全にクリアにするというのは難しいです。なので、本を貸出しする時に、「本を読むまえと読んだあとは手を洗おう！」というチラシをお渡ししていて、みんなで気をつけていきましょうという形をとっています。

また、利用者の方に、最近大泉図書館でとても利用が伸びているものとして、図書除菌機というものがあります。1階の自動貸出機の横に大きめの冷蔵庫のような形の白いボックスがあるんですが、今結構話題になっているもので、図書除菌機に本を2冊入れることができ、閉めていただいた後ボタンを押すと30秒間、紫外線と風が出まして、いろんなゴミとか紫外線でウイルスが除菌できるという仕組みになっています。中にある細かなゴミなどといったものが入っている場合、風を送ることで取れるようになっていきます。大泉図書館では、コロナ禍以前はあまりお使いになる方がいらっしゃらなかったんですけど、このご時世でだいぶ利用回数が増えました。毎月使用回数の統計を取っているのですが、1か月500回ぐらいしか使われてなかったものが、今1000回を超えて1400回とか使われています。

ひとつの方法で100%防げるというものはないと思いますので、いろんな合わせ技でやっていこうというところでしょうか。

**利用者** その機械は、あちこちにあるんですか。

**図書館** 現在、図書除菌機は、練馬区内すべてにあるわけではありません。今設置されているのは、大泉図書館、貫井図書館、関町図書館、南田中図書館、石神井図書館、あと小竹図書館にもあります。大泉図書館の図書除菌機をぜひ使ってみてください。

**利用者** 今一般社会では、食べ物なんかはデリバリーサービスというのがあって、これは店まで行かなくてもお金を払えば、商品が届くという非常に便利なものですよ。

図書館では、今そういうサービスは実際はやってないですよ。で、コロナ禍はすぐ収まるわけではないので、もちろん利用者負担ってこともありますけど、そういうサービスがシステムとしてできるのか、考えてるのか、あるいは全く考えてないのかお聞きしたいなと思っています。

**図書館** 郵送サービスというのがあるんですが、これは一般利用者の方ではなくって障害者向けのサービスとなっています。こちらは大泉図書館だけでできることではないので、光が丘図書館にあげたいと思います。

**図書館** 他にも何かございませんか。

**利用者** 大泉絵本の会を立ち上げて、40年経っているんですが、それとそれからねりまおはなしの会で、図書館でおはなし会をさせていただいております。大泉図書館は地域に開かれた図書館を作ろうっていうことで、そういう運動の中でできた図書館で、年ごとに図書館の方でそのことを考えて、そういう意識で図書館の運営をして下さっているなっていうことを感じております。先程、事業説明の中で言われた「大人のための絵本の会」というのも、結局読書とか本を見るっていうのは個人的な作業っていいですか活動なんですけども、それを、みんなで同じ方向じゃないんですけども、皆さんが持ち寄った本を紹介していただくと非常に面白い発見があったりするんですね。それを、絵本版じゃなくて本全体についてなさろうとしてるのが、今度の読書サロンだろうと思っております。私はもういろんなことには参加できませんので、大人のための絵本の会だけ参加しておりましたけど、読書サロンもできる限りと思っております。そういうようにしてくださっているもののひとつが、おはなしの会と図書館の方とで40周年、どちらも40周年だったものですから、記念のおはなし会ができて、それは非常に、私はうれしいを乗り越えて感動までは大げさですけども、そういう思いでおります。大泉図書館を作る時は、絵本作家のわかやまけんさんの家がここから歩いて7～8分のところにあるんですけど、わかやまけんさんが「大泉に地域図書館をつくる会」の代表として、いろいろなさってくださいました。その会を引き継いだのが大泉絵本の会なんですけれども、その時の絵本なども、今年は、開館記念の時に100冊の絵本のリストを作りまして、その本を展示したんですね。それも、今年は図書館でもしてくださいまして、こうやって地域とのつながりがつくられていくのかなあとということを実感しております。コロナで本当に書架から本を手にとれないというのはこういうことかということもありましたし、早く書架から好きな本を取れるといいなと思っておりました。少しずついろんなイベントも、手探りで決して無理しない形でしていくってことなんだろうなあと感じております。皆さんも図書館のいろんなイベントに機会があったら参加されると、本当に新しい発見があります。よろしく願います、っていうのもおかしいですね。

**図書館** ありがとうございます。今もおっしゃっていただいたんですけども、本を読むことって本当に個人的な作業なんですけども、いろんな人が様々なことに興味があっ



てあれこれと本を読んでいると思いますが、自分が興味を持ってる本についてすごく思い入れがあると思うので、それについては、語りたいことがいっぱいあると思うんです。やっぱり、コロナの時代になって人と接触しちやいけないってこんなに寂しいことだったんだってすごく感じたんですね。臨時休館していた2か月の間って、家族がいなかったら本当に人と全然接触しないで毎日を過ごしていくしかないんだと痛感して気持ちがさがっていました。図書館になら、本はいっぱいあるし、本を通じて全然知らない人どうして話ができたり、本の情報を共有できたら楽しいんじゃないかなというように思って、ずっとあたためてきた企画が、この時代にうまく合って進められてよかったと思っています。「大人のための絵本の会」は偶数月にやっているんですが、これから始まる「本でつながる大泉読書サロン」は奇数月に開催しようと思っているところなので、ぜひ、興味ある方は何かしら本を持って参加していただければと思っています。毎回定員は10名程度で実施しています。

**利用者** 講演会のことをお願いがあるんですけども、図書館も地域のため、住民のためにあるという観点からなんですけど、最近デジタル化が急激に進みましたよね。あと10年か先だと思われていたAI、人工知能の時代がもう目の前に来ちゃった、AI自体がもう一定の学びを終えると、自分たちで考えて、次のものをどんどん作っていくという、とてつもない時代になるんですね。その中で、やたらとコンピューターでいろんなものを申し込むと今までのやり方が全く変わってきてね、そういうものに置き換えられてきているので、若い方はいいかもしれないけれど、高齢者にはとって理解が難しいんです。そういう時に、人間とは何かっていうようなものをもっとみんなが自覚していないと、本当にとんでもない社会になると思うんです。そういうことについて専門家をお呼びして、いろんな観点から教えていただくことが、これからのものすごく大事なことじゃないかと思っていますので、ぜひそういう方向も考えてください。

**図書館** ありがとうございます。事業を行うにあたっていろいろなご要望ですとか、地域に必要とされていることを考えながら企画を立てているところなので、事業計画を立てる際に盛り込んで考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

**利用者** 先程絵本のお話が出たので、私達のねりま文庫連絡会というのも、子どもと本をつなぐ活動をしている団体です。ねりま文庫連絡会は、去年50周年を迎えてまさにこの会場で「ねりまの文庫50年展」というのを開催させていただきました。去年10月でした。台風で準備の日が飛んじゃったという大変なことがあったんですけども、でも去年できて本当によかったです。今年でしたら、大変なことだったので、コロナで。去年開催できて、本当によかったなと思っています。その際には、ほんとに準備の段階、打合せの段階から図書館さんにもいろいろご協力いただきまして、ありがとうございました。それで先月(9月)に、ようやくその事業をまとめた記念誌ができ上がりまして、大泉図書館とか、ほか何館かで開催した「ねり

まの文庫 50 年展」の記録がカラー写真で載せてあります。この記念誌は、1 階の地域資料のコーナーに蔵書させていただいておりますので、ぜひご参加の皆様にもご覧いただければと思います。

こちらの表紙はずっと何巻にもわたって、最初から表紙の絵はいわさきちひろさんの描かれた子どもの絵なんですね。これは文庫連絡会にいただいた、いわさきちひろさんの絵なんです。枠が本の枠になっているんですけども、これはわかやまけんさんのデザインということです。ちひろも練馬ですしね、いろんなアーティストの方にご協力いただいている記念誌です。ぜひ皆さん、地域資料でお探しになってください。

**図書館** 地域資料コーナーに所蔵していますので、ぜひご覧ください。

地域にある施設の方で、何かございましたら、ご要望とかでなくてもいいですし、アピールなど、こういう活動をしていますとかでもいんですけど…。

**利用者** 私が不勉強なんですけど、この、読書サロンというものに興味があるんですが、申し訳ないけども見落としました。それで、具体的に我々にこういう催しとか、「図書館だより」とか、我々が目にする連絡方法がいろいろあると思うんですけど、具体的にちょっと教えていただけますか、区報とか、いろいろあるんでしょうけど。

**図書館** 区報は、掲載できる事業としては、区内全域にわたって広報したいものという基準がありますので、この読書サロンは区報には載せられなかったんですけども、館内に置いてありますチラシや「図書館だより」、それから図書館のホームページで、大泉図書館のところをクリックしていただくと、こんな催し物がありますというような告知が出ています。

**利用者** 具体的に、もうちょっとこれ、内容を教えてください。出てみたいなあと思って。

**図書館** どんな本でもいいんですが、自分が読んで、これ面白かったというものを持ってきていただいて、その場でその本についてお話しいただく、説明していただいてもいいですし、この本はこういうところが面白かったとか、その本に対する思いを語っていただければよくなって、特にこういう形でなければいけないとかいう制限は設けていないので、どんなふうに話していただいても大丈夫です。あと、10 人ぐらいの規模で開催するので、ひとり5分くらいずつ話していただいて、それについて何か質問があれば聞いていただくような感じでやっていければと思っています。11 月が第 1 回の予定となっています。今館内にチラシも置かれています。

**利用者** それはあれですか、その場合に参加される方は、例えばある絵本を紹介されますよね。その本を一度も読んだことのない方に対してその絵本を説明するわけですよ。

**図書館** 読書サロンは、絵本ではなくて一般の本を対象としています。ご自分の読んだ本について語り合う会です。

**利用者** 他の方は、全然その本を読んだこともない方もその場にいるわけですよ。それで、その方にその本を説明して、それはどういう結果として、有効っていうか、意

味があるんですかね。つまり、その本を読んでなかったら、いくら説明されたって、それがちょっとわからないんですが…。

図書館 11月の開催は11月15日です。その本についてプレゼンする形だと思っていたらよいと思います。

利用者 それに対して1回も読んだことのない方もおられるわけですよね。

図書館 読んだことがないからこそ、読んでみようかなって思っていたらいいんです。

利用者 それでいいんですか。

利用者 本の紹介って言えばいいわけですかね。

図書館 そうです。

利用者 それに関してですけど、それを立ち上げるために先月でしたっけ、半分は講演で半分はプレゼンだったんですけども、その時に私は紹介された本の中から『米屋』っていうのがあったんですね。私の実家が米屋だったものですから、あ、そんな本があるんだと思って知らなかったので借りていきました。それから、芥川賞を取った『おらおらでひとりいぐも』も、芥川賞が出た時にだーっと読んだぐらいだったんですけど、その時紹介されて、あらためて読んで、60代の人が80で思うようなことを書いているんだと、言葉っていうものの裏にたくさんのその人個人の言葉じゃなくって、民族って言ったら大げさですけど、そういうものがあるんだっていうことも感じさせられたりした、だからそういうようなことがそれぞれにあると思うんですね。だから、それはもう人それぞれ、受け止め方はあると思います。

利用者 いや、ですから、会の枠組みと言いますかね、例えばその本に対して深く、そういうことじゃないんですね。

図書館 そういうことではないです。

図書館 すみません言葉が足りなくて。自分ひとりで読んでると、自分の好きなものとか自分が見える範囲が決まっちゃうと思うんですが、人から全然違うものを紹介されたら、なんか意外とおもしろそうだなって思うこともあると思うんです。

利用者 ですから、こういうコンセプトで。

図書館 そうですね。読書の幅も広げてほしいし、本を媒介にして人と人が話すっていうのも楽しいかなと思って企画したものです。

利用者 わかりました。ありがとうございました。

図書館 ありがとうございます。

利用者 つくりっこの家と申します。今、こちらの図書館のみなさんの話を聞いていて、私どもも40年近く活動をこの地でやらせていただいて、その中でいろんな方たちとつながりを持つことができている。昨年たまたま、住宅街奥に施設があったんですが、そこから、そこもまださき織り工房として使いますが、バス通りの方の閑越のところの自転車屋さんの隣にお店と事務所を構えることができました。住宅を改造したところだったので、それこそコロナ禍の今では密になってしまう場所

だったので、昨年もし移っていなかったら活動ができなくなってしまったかなと思っています。

でもみんなでいろいろ寄り添って活動としてはやれたんですが、もうこの状態の中では活動は停止にせざるを得ない状態だったと思います。たまたまご縁があってその場所に開くことができたので、おかげさまでコロナ禍でも私たちの活動をやめることなくずっと続けていくことができました。知らない方もいらっしゃると思いますが、今図書館の方でも発達障害の講座を開かせていただいて、私どものスタッフの研修とかで使わせていただいて大変有意義に過ごさせていただいたんですが、大人の発達障害の方が、主に精神疾患の方たち、性同一性障害やうつうつ、またうつ病の方といった方たちが、地域の中でひとりの人として活動し、なおかつ共に働いて共に生きていこうということで、活動を続けています。

私たちを含めて、その方たちにとっては、図書館が本当に憩いの場であったんですね。ですので今回臨時休館せざるを得なかった時期には、たぶん、もちろんたくさんの方たちもお辛かったと思いますが、私たちの利用者の方もどれほどね、今まで助けられていたのだなあということをお互いに話をしておりました。

皆さんとても協力してくださって、私どもの活動にも興味を持ってくださって、農福連携ということで、地域の若い農家さんと連携して野菜も、そうですねもう20年ぐらい前から近くのおじいちゃんおばあちゃんと一緒に野菜を売らせていただいていたんですが、ここ2年ぐらい前からは若い農家さんたちと、図書館さんとの連携を含めて、図書館の入り口でマルシェをさせていただいてまして、私どもの活動の中で、クッキーやケーキ、それからさき織りですね、リサイクルの布を使いましてそれを糸として織って製品にして、地域の皆さんにお見せさせていただきました。コロナのことで、もうほとんどイベントができない状態なので、それこそ、売場がなく、ただ、移転したところがバス通りだったので、緊急事態宣言の時も逆にお客様がたくさんいらっしゃってくださって、それこそお野菜を農家さんたちが直接売りに行けない状態で、たくさん持ってきてくださったんですね。それで、売ることができて、地域の皆さんも喜んで買ってくださいってその時期すごく売上げがよかったんですよ。

私たちもメンバーの方たちもすごく喜んで、地域の中で活動できてよかった。また図書館でもやれたらいいなあと。図書館で知った方も何人もいらっしゃるので、今回さき織り展を石神井公園の方でやらせていただいた時も、お知らせを図書館でもしていただきまして、それを見てわざわざ石神井まで来てくださった方もいて、本当にありがたいなあとと思っています。

地域の中で、こうやって毎日コツコツと一緒にお仕事させていただいていますので、今後とも一緒に何か協働のものができたらありがたいなあと考えていますので、よろしくお願いします。

**図書館**      ありがとうございます。大泉図書館のピロティで、つくりっこのマルシェを毎月

やっていたんですけれども、今年度はちょっとできない状態になっています。図書館って、いろんな施設に比べて入るのに敷居がすごい低い場所だと思うんですね。なので、その利点を生かしているいろんなことをやっていきたいなと思っています。前年度は、大泉図書館で活動している団体、朗読のいずみさんですとか、夏目漱石の会主催の講演会を手伝わせていただいたんですが、今年はやはりこの状態で開催できなかったんですけれども、またもうちょっと落ち着いてきたら、それこそ人数を抑えたり、いろんなことを考慮したうえで一緒に何かできればいいなと思っていますので、またご相談させていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

**利用者** 全然話題が違いますけども、地域図書館の大きな役割の中に学校とつながるといふ仕事をずっと続けて、学校の図書室と子どもたちとつながるといふ仕事をしてくださっているという役割があるので、ぜひ学校図書支援員の方に、いくつの学校でどういうふうに仕事してらっしゃるかということをお聞きになるんじゃないかと思うので、お話しただけませんか。

**図書館** 大泉図書館から近隣の小学校8校中学校5校で、小中学校あわせて13校に学校支援員が訪問しています。1校当たり年間100日伺っています。いわゆる学校の図書室にいて、貸出返却などの受付業務と、あとは授業でどんだん子どもたちが来ていますので、調べ学習とかよみきかせをしたりという授業の支援をしています。今年度はコロナ禍で制限がある中で支援を行っています。どうしても学校図書館って向かい合わせて座ることが多いのと、あとは、よみきかせをする時も集まってしまうので、現在は教室に書画カメラというのがありまして、本をそのままスクリーンに投影したり、テレビに投影したりして、大きく見ることができますので、子どもたちは教室のそのままの席で大きい画像でお話を聞いたりということをしています。

**利用者** 子どもの研究発表のこともお話ししたら。

**図書館** 「図書館を使った調べる学習コンクール」というものを行ってしまっていて、今年度も夏休みにいろいろまとめた作品を、子どもたちが提出してくれています。自分たちでこれを調べたいって思うものを深めて調べてくるんですけれども、夏休みに、今申し上げた学校の支援に行っている担当の者が数日間図書館の方で勤務してしまっていて、顔見知りのいつも学校の図書館に伺っている者が対応することで、お子さんたちもとても聞きやすいようなんです。こういうことを調べたいって言った時に、初めて見る人よりもいつもの顔の人がいると聞きやすいので、こんな本ありますか、これについてもっと調べたいですっていう時に、気安く声をかけて調べることができています。今年度も審査を終えまして、優秀な作品がどんどん集まってきていて、来月表彰式を行うことになっています。

**利用者** ありがとうございます。

**利用者** 先ほどの方も図書館に非常に感謝されていたんですけれども、私も、図書館と同時

にそこで働かれている皆さんに本当に感謝してるんですね。というのは、私達も朗読の会をやっているんですが、そういう会がないとこの年齢になりますと、非常に老化が激しくなるんですね。自分で認知症が進んだんじゃないかと思うぐらい。みんなが、ろれつが回らなくなるっていうんですね。若い方には考えられないでしょうけど、そういったこと。それで、みんなで会々と元気が出て笑顔が出て、それがどれだけ助かってるか、っていうこと。それをまずね、本当に感謝したいと思います。それと同時に、ここの大泉図書館で働かれてる皆さん、接客態度っていうんですか、マニュアル通りじゃなくて本当に心から礼儀正しく人に接して、手取り足取りを惜しまない、そういう態度が感じられるんです。皆さんいかがですか。それ、ものすごく感じませんか。そこらへんが一人残らず、本当に素晴らしいと思って、ちょっと最後にその感謝、でもこれ本心ですので、本当にありがとうございます。

**図書館** ありがとうございます。いたらない点もあるかと思いますが、きちんと指導していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

今、朗読の泉さんからお話が出ていたんですが、今まで大泉絵本の会さんたちがやられていた勉強会、個人のお宅でされていたけど、コロナ禍にあってそれが難しくなって、図書館でやってみようって思われたっておっしゃっていたので図書館もお役に立っているのではと思います。

大泉図書館には、この視聴覚室と会議室、部屋がふたつあります。地域の方にもどんどん使っていただきたい場所でもありますし、図書館に関係したこと、本に関係したことでお使いいただく場合には無料になりますので、どんどんお使いいただければと思っております。

**利用者** 大泉絵本の会は、はじめ図書館を作る中でできた会ですので、図書館で勉強会してたんです。ですけど、時間制限とかいろいろあるもんですから、だんだん個人の家でするようになって、個人の家だとお茶を飲んでちょっとおやつもいただきながらとかできるので、だんだんそういうふうになって40数年なんですけども、個人の家だと何かあった時にそこのお家にも迷惑かけるし、いろんなことが起きるので、図書館のお部屋を借りられるようになった時に、図書館を利用するっていうことの方がいいかもしれないなと思って、そうした次第です。それから、私ね、図書館の人たちがいかにこのコロナ禍でいろんなことに気を使われているかっていうことのひとつを、ああそういうこともあるんだと思ったのは、ご自分がコロナにかからないように、例えば展覧会でも映画でも行きたくても我慢されているっていうかちょっと自粛されているっていうことを伺ったことがあって、やっぱり公のことをされている人はそういうふうに分かるんだなと思ったことでした。

**図書館** ありがとうございます。お茶とかお菓子は出ませんが、本ならいっぱいありますので、ぜひご利用ください。

**利用者** 白子川源流水辺の会と申します。私は南大泉に住んでおりますけども、この職員さんがもう何年も前から、白子川に取り組みまれておりまして、1階から2階に上

がる踊り場のところにも、ずーっと、今日も、季節の移り変わりがとても素晴らしく展示されていて、私たちの活動よりも素晴らしいなあと思うんですけども。まあそんなおかげで、今日もそれでお呼びいただいたんですけども。非常に小さい事例ですが、つい一週間前に図書館と地域と活動団体と、ひとりの区民というか、つながりがこんなところにあるんだなって、当たり前って言ったら当たり前ですけども、小さいことですが…。実は一週間前にある高齢の方から電話があって、大泉図書館に置いてある、実は私たちの白子川水辺の会はもう20年になるんですけども、1年間に3回、会報っていう新聞を出しております、カラーで。今でもここに置かせていただいていると思いますけれども、表がとてもきれいなカワセミの写真とかで、「源流通信」というんですけども、A4の4ページものですけども、それを年に3回出してございまして、大泉図書館でもいつも目立つところに置いていただいています。実は、その方が今、58、59、60号っていうんですけども、その3回分を大泉の図書館でずっと見てくださっていて、創刊号とかこの会に興味を持ってくださって、私の家に電話がありまして、水辺の会の20年前の創刊号とかそういうことに非常に興味があるのでなんとか大泉図書館で見ることにはできないかっていう話があったんですけども、それはもうバックナンバーで、あるいはコピーでお渡ししましょうか、って話していたところ、白子川のホームページにバックナンバー全部1号から載っていましたので、その方にホームページに載っていますのでそれをご覧いただければと言ったら、私はパソコンやらないけれども息子がインターネットやるので、息子さんのところでプリントしてもらって、見ることができると思います、ということで。皆さん活動はどのようにやっていますかっていうようなことだったので、比丘尼の近くで月1回何曜日の何時から何時までやっているのそこにおいでになったらいかがでしょうかっていうところまで話ができました。些細な話ですけども、ただ、私たちもう20年も地域、川のことをやっている団体としては、そういう形で、図書館をきっかけにつながるっていいですか、なかなかそういうことは数年に1回しかないんですね。私どもも、ホームページもやったり、TwitterとかFacebookとかいろいろやっていますけれども、やっぱり手に取って紙を見てペーパーに印刷されたものを見て、世代的にはやや上の方かもしれませんけど、図書館のそういう部分での地域の中核っていうと大げさですけども、人のつながりの拠点になっているんだなと思って。私は、そういう源流水辺の会っていう立場で、ありがたいなと非常に思いました、小さい事例ですけども。今後ともよろしく願います。

**図書館**     ありがとうございます。図書館は、本の貸出返却が機関業務ですけども、大泉図書館は地域の中でいろんな人と手をつなぐ真ん中の存在になりたいなって思って、日々いろんな事業を考えたりですとか、運営をしていますので、今みたいなお話をいただくとすごくうれしい気持ちでいっぱいです。来るものは拒まずですので、何かこういうことがしたいんだけどという時にはご相談いただければと思

います。

**図書館** では、時間となりましたので、これで閉会とさせていただきます。引き続き図書館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、最後に、光が丘図書館の懇談会が11月7日土曜日午後2時から4時まで行われます。本日は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。またのご来館をお待ちしております。